

高校生が綴った水への想い



次代を担う高校生の「水」に対する思いに触れてみませんか？

「水のエッセイコンテスト」は、全国の高校生を対象に平成5年度から開催され、今年度15周年を迎えました。この間14万人を超える高校生がエッセイをまとめ、「水」と人、生活、社会、世界との関わりを様々な視点で捉え、水の価値、水の大切さを考える機会を持ちました。

全国高等学校国語教育研究連合会の推奨も受け、内容、規模ともに他に類のないコンテストとなっております。

本書籍は、水のエッセイコンテスト15周年の記念として、これまでの優秀作品や審査員の講評等を集大成したものです。

高校生たちが、「水」やさまざまな環境問題について考える際の格好の学習教材になるとともに、情報提供者側にとっても、いま、高校生たちが水についてどのような関心を持ち、どのような問題意識を持っているかを学ばせてくれる、有用な図書となっております。

A5版/218頁(モノクロ) 平成20年2月発行 (価格700円 [税込み、送料別])

全国高等学校国語教育研究連合会 推奨

【編集】水のエッセイコンテスト実行委員会

【発行】財団法人 河川環境管理財団

「高校生が綴った水への想い 水のエッセイコンテスト15周年記念集」 目次

巻頭

溢れだす十五回の軌跡

ごあいさつ

さわやかな水の流れの中で

審査員長 牛島倫子

未来のエッセイストたちへ

- 審査員からのメッセージ

・エッセイと小説の違い

作曲家・日本芸術院会員 團伊玖磨

・「さあ、出発しよう。

光に満ちた美しい午後に向かって。」

科学評論家 宮田親平

・知性と感性を研ぎ澄まし自分の言葉で表現する

鶴見大学教授 牛島倫子

・エッセイにとって必要な「感性」とは

慶應義塾大学教授 青池慎一

・エッセイを書くことは

大人になるプロセスそのもの

立命館大学客員教授 竹村公太郎

・文章を書く技術は一生の財産

ジャーナリスト 松原照子

・高校時代の創作活動の意義さ

二松學舎大学附属高等学校校長

橋本喜一

團伊玖磨記念賞・最優秀賞入賞作品

第1回～第15回

資料

開催概要・入賞者一覧